# 2015 度 小委員会活動成果報告

（20　　年　　月　　日作成）

| | | |
|---|---|---|
| 小委員会名 | 創造的地域文脈小委員会 | **主 査 名**：土田　寛<br>**就任年月**：2015 年　4 月 |
| 所属本委員会<br>（所属運営委員会） | 都市計画委員会 | **委員長名**：有賀　隆 |
| 設　置　期　間 | 2015 年　4 月　　～　　2019 年　3 月 | |
| 設　置　目　的<br>各年度活動計画<br>（箇条書き） | ・これまで、地域文脈を集落・都市の変化を過去から未来への発展的なプロセスの中に見出される価値であり、その生成は計画やまちづくりを通して、時間を超越する連鎖構造を更新する行為であると確認した。<br>・加えて変化する地域環境の過去を意味のある事物・出来事の連鎖として解釈することによって生まれてくる創造の方法を３つの波として整理した。<br>・本小委員会では、これまでの成果におけるキーワードとして地域文脈における解釈的、保全的展開も重要であるものの、これらに対して創造的というキーワードをかかげて整理し、第三派の理論的充実、そして何よりも実空間に働きかける実践例を積み上げ、方法化・体系化していくことを大きな課題としてとらえ、議論を深めていく。 | |
| （委員構成<br>委員名（所属）） | **委員公募の有無**：あり<br>主査　土田　寛（東京電機大）<br>幹事　有田智一（筑波大）中島直人（慶應義塾大）<br>青井哲人（明治大）木多道弘（大阪大）篠沢健太（工学院大）清野隆（江戸川大）<br>田中傑（京都大）松山恵（明治大）山口秀文（神戸大）平田隆行（和歌山大） | |
| 設置 WG<br>（WG 名：目的） | 20 世紀の計画都市の比較都市計画史ＷＧ：<br>20 世紀の都市計画の成果であり遺産であり、日本を代表する計画都市のつくば研究学園都市、港北ニュータウン、多摩ニュータウンを対象として、比較都市計画史の立場から総合的に評価することを目的とする。これらの計画都市は、都市構造も大きく転換することが想定されている中で、創造的に生み出された可能性があると同時に、内包された地域文脈も時の要請にこたえる形で創造的に新たな地域文脈を生み出そうとしている。 | |
| 2015 年度予算 | 180,000 円 | **ホームページ公開の有無**：あり<br>**委員会 HP アドレス**：area-context.com |

| 項　　目 | 自己評価 |
|---|---|
| 委員会開催数 | ３　回（年度内計画を含む） |
| 刊行物<br>（シンポジウム資料等は除く） | |
| 講習会 | |
| 催し物<br>（シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等） | |
| 大会研究集会 | |
| 対外的意見表明・パブリックコメント等 | |
| 目標の達成度<br>（当初の活動計画と得られた成果との関係） | １．計画都市 WG を加えて、新たな枠組みとして「創造的地域文脈」に関する基本的な方向性を議論すべき初年度であったが、刊行物の作業が中心となった。<br>２．これまでの委員会での地域文脈の理解と再認識について出版原稿という形で、導かれている第一から第三の時間軸ごとにメンバーを選定し議論を深めた。<br>３．結果的に議論の進行に伴って、若干の不整合等の解決が優先されるべきとの結論となり、鋭意進めている。 |

| | |
|---|---|
| **委員会活動の問題点・課題** | １．これまでの委員会を牽引されてこられた先生方との意見交換、意思疎通に時間を要し、思うように進めることができなかった。<br>２．多忙な委員の先生方との密接な連絡調整を図ることを怠ったため、ご迷惑をおかけした。<br>３．地域文脈に関する学術的理解は状態的に進行している状況を踏まえ、早急にここまでの議論を取りまとめる必要がある。 |

＊小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

# 2015 年度　小委員会活動計画

| | 小委員会スケジュール | WG スケジュール |
|---|---|---|
| 4 月 | 小委員会および WG 立ち上げ | |
| 7 月 | 刊行物の構成に関する最終打ち合わせ | 港北 NT について川手昭二先生の講演記録をベースとしてインタビュー等を実施する |
| 10 月 | WG 成果との関連性を整理 | |
| 11 月 | **中間報告（都市計画本委員会拡大幹事会）** | |
| 1 月 | 最終原稿の取りまとめ | 筑波学園都市について計画時をご存知の方や原資料手する |
| 3 月 | ○評価<br>○今後の課題整理、次年度の実施項目検討 | |

# 2015 年度 WG 活動計画および自己評価

（20　　年　　月　日作成）

活動計画

| | | |
|---|---|---|
| WG 名 | 20 世紀計画都市の比較都市計画史ＷＧ | **主 査 名**：有田　智一<br>**就任年月**：2015 年　4 月 |
| 所属小委員会 | 創造的地域文脈小委員会 | **委員長名**：有賀　隆<br>**主 査 名**：土田　寛 |
| 設　置　期　間 | 2015 年　4 月～2019 年　3 月 | |
| 設　置　目　的<br>各年度活動計画<br>（箇条書き） | 本ＷＧでは、20 世紀の日本の代表的な計画都市である研究学園都市と、港北ニュータウン及び多摩ニュータウンとの比較研究によって、20 世紀の都市計画の成果であり遺産である、日本の計画都市を比較都市計画史の立場から総合的に評価することを目的とする<br>【初年度】<br>・港北 NT についての既存資料の整理・文献収集・インタビュー調査<br>【第 2 年度】<br>・筑波研究学園都市についての既存資料の整理・文献収集・インタビュー調査<br>【第 3 年度】<br>・多摩 NT についての既存資料の整理・文献収集・インタビュー調査<br>【第 4 年度】<br>・比較研究の項目設定と総括 | |
| WG 構成<br>（氏名（所属）） | **委員公募の有無**：無 | |
| | 主査：有田智一　　筑波大学<br>委員：加藤仁美　　東海大学<br>：中島直人　　東京大学<br>：中島伸　　東京大学<br>：中野茂夫　　島根大学<br>：小山雄資　　鹿児島大学<br>：藤井さやか　筑波大学<br>：松原康介　　筑波大学<br>：山本幸子　　筑波大学 | |

ＷＧ活動自己評価

| 項　　目 | | 自己評価 | |
|---|---|---|---|
| 目標の達成度<br>（当初の活動計画と得られた成果との関係） | | ４段階評価※2　B | |
| | | 具体的な活動計画について詳細を議論し研究計画をまとめる<br>港北 NT については、港北 NT の公団の責任者をされていた川手昭二先生の講演記録をベースに、インタビュー等を実施する | |
| | WG 開催数 | 当初予定　　4　回 | 開催数　　2　回 |
| | WG 参加状況 | １．10 月 28 日　　4 人<br>２．12 月 2 日　　4 人 | |
| | 成果 | 港北 NT については、講演記録を作成し、骨子を取りまとめた<br>筑波研究学園都市については、文献等既存資料の入手に取り掛かった | |
| WG 活動の問題点・課題 | | インタビュー調査を行う予定としており、関係者の高齢化に伴う時間的な制約に以下に対応するかが課題である | |

※　WG 活動計画および自己評価は本書式を基本とする。ただし、それぞれの WG において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

※２　A 評価：WG 設置目標に対し、80%以上の達成度、B 評価：WG 設置目標に対し、70%から 80%の達成度、C 評価：WG 設置目標に対し、60%から 70%の達成度、D 評価：WG 設置目標に対し、60%以下の達成